

## 再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道361号 <small>うばがみとうげどうろ えんしん</small> 姥神峠道路(延伸)		事業区分	一般国道	事業主体	長野県	
起終点	自：長野県木曾郡木曾町日義字宮ノ越 至：長野県木曾郡木曾町日義字神谷				延長	3.51km	
事業概要	一般国道361号は、岐阜県高山市から長野県伊那市に至る延長約152kmの幹線道路である。姥神峠道路(延伸)は、地域間相互の交流促進・連携強化を図るため走行性、防災上、交通安全において質の高い道路整備を目的とした延長3.5kmの地域高規格道路である。						
H14年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)		H19年度用地着手予定		H20年度工事着手予定		
全体事業費	125億円		事業進捗率	2%		供用済延長	0km
計画交通量	3,800 台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	2.0		総費用 (残事業/事業全体)	216/216億円		基準年 平成18年
	(事業)	2.0		事業費：104/106億円 維持管理費：4/4億円	走行時間短縮便益：230/230億円 走行費用減少便益：2/2億円 交通事故減少便益：-17/-17億円		
感度分析の結果	—						
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土、地域ネットワークの構築（地域集積圏の連携・交流機能が改善される）</li> <li>防災上の安全確保（現道利用区間における落石や崩落からの回避）</li> </ul>						
関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>木曾広域連合、上伊那広域連合、南信州広域連合等から構成される長野県南部国道連絡会より事業促進の要望がある。</li> </ul>						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年2月に伊那市与地から木曾町神谷までが地域高規格道路として供用が開始され、現在は平均3,300台/日の交通量があり、周辺観光施設の入り込みが増大するなどの効果が現れている。</li> </ul>						
事業の進捗状況、残事業の内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度までに、環境調査、地質調査、地形・路線測量、道路・橋梁予備設計を実施。</li> <li>残事業は、地質などの追加調査、道路・橋梁詳細設計、用地補償、本工事。</li> </ul>						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> <li>木曾町神谷から国道19号間は現道を利用することにより交通が確保されるため、伊那市与地から神谷までの供用開始に重点投資した。今後は一層の事業進捗を図り平成24年度全線開通予定である。</li> </ul>						
施設の構造や工法の変更等	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>						
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、残工事を実施することにより、当初の目的が達成されると考えられる。						
事業概要図							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。